

## 参加者自身で企画する中高生館内宿泊会

### 取組の背景・目的

- (1) 児童館ガイドライン中にある「子どもの意見を尊重した事業提案」を踏まえ、自分たちで企画した行事を成功させることで、達成感や自己肯定感につなげる。
- (2) 児童館内で「生活」をすることで、児童館が自分たちの「居場所」であるという意識を高める。
- (3) 中高生が自分たちで主体的に考えて実施する機会を作り、自立につなげる。
- (4) 普段、児童館内では自分たちのグループ内しか関わらない中高生同士をつなげ、新たな関係をつくる。

### 取組の概要

- (1) 実施場所は東向島児童館内。普段自分たちが遊んでいる場所で、寝袋等を使用して、宿泊する。館内に入浴施設はないため、近隣の銭湯を利用することもある。  
食事やレクリエーションにかかる費用は、児童館事業費と参加者から徴収する参加費で賄う。
- (2) 実施頻度は年 1, 2 回
- (3) 職員体制として常勤職員 2 名が担当し、監督者として副主任以上がアドバイザーを担う。
- (4) 事業概要としては、参加する中高生と事前に会議の場を設け、宿泊の内容、タイムスケジュール、食事の献立、買い出し方法、レクリエーション等をみんなで考え、みんなから出た意見を尊重したプログラム構成とする。

## 工夫点・留意点

- 工夫点として

夜間の活動が中心となるので、事前に地域住民の方にも事業の説明をして理解してもらうと同時に、地域の方に児童館が中高生の居場所作りとして重要な役割を持つことも理解してもらう。

ボランティア育成の観点も重視し、今後少しでも児童館事業のサポート的役割に関心が持っていけるような働きかけをする。

- 留意点として

思春期を迎えた時期でもあり、参加者個々の思いを職員は理解していく。  
自己肯定感が抱ける活動になるよう心がける。

## 取組の効果



### 効果として

- (1) 児童館内で宿泊した結果、より一層自分たちの居場所という気持ちが芽生えた。
- (2) 学校や学年が違う子や日常あまり関わりの少ない職員との新しい関わりができた。

## 課題・今後の展開

- (1) 参加者や企画に積極的に関わる中高生を増やしていきたい。広報の仕方の工夫や日常の関わりを深めていくことで、もっと児童館の事業に関心をもってもらうことが必要である。
- (2) 中高生が情報を入手する手段としてWeb（スマホ）が主流になってきているのでSNSを活用した情報発信を導入していくことを検討している。